



早川 浩徳 議員

市民にとってよりよい
これからの図書館や
公民館のあり方とは

問
これからの図書館サービス
のあり方とは

答
多様な資料の整備、学習支援、図書を活用した生涯学習の推進に取り組みます。

問
ホームページから施設の予約なども利便性を高めるために必要と考えるが、導入する考えは。

答
教育総務部長

行政手続きなどのデジタル化の検討を進めており、公民館の利用予約のオンライン化についても検討を進めたいと考えています。

問
高島市市民大学で地域学と
いった内容を取り上げ、それを
学生など若い人を主な対象
として行うような考えはある
か。大学と連携し、卒業単位
として認定するなどの取り組
みを進めることについては。

答
教育総務部長

仮称たかしま市民大学については、若い人たちを含め、幅広い世代の方に受講していただきたいと考えています。具体的な内容は、これから「たかしま市民大学準備委員会」で検討しますが、議員ご提案の地域学なども検討されると考えています。

問
これからの公民館のあり方
について。

答
教育総務部長

仮称たかしま市民大学の開校準備とともに、公民館の講座や教室の運営体制全体の再構築に取り組み、生涯学習・社会教育の拠点としての役割をさらに高めていきたいと考えています。



答
教育総務部長

利用者からカウンター等で直接意見をお聞きしたり、意見箱、メールでのご意見を図書館運営に反映しています。市民の代表の方に委員となつていただいている図書館協議会を開催するなど、より良い図書館運営に向け取り組んでいます。

問
図書館協議会の意見の反映等
はどのように行われているか。

答
教育総務部長

図書館協議会は、年に3回開催し、本の配置や利用者の拡大に関することなどのご意見を運営に活かしています。一例として、「読んだ本を記録する読書手帳のようなものはないか」とご意見をいただき、昨年度、読書手帳「読書のキセキ」を作成しています。

問
市民からも幅広く意見を
取り入れる図書館づくりにつ
つ。